平成18年8月14日

各　　位

会 社 名　株式会社アウトソーシング
代表者名　代表取締役社長　土井春彦
（コード番号：２４２７）
問合せ先
役職・氏名　常務取締役管理本部長　梅原正嗣
電　　話　054－281－4888（代表）

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績の動向を踏まえ、平成18年２月17日に公表いたしました平成18年12月期（平成18年１月１日～平成18年12月31日）の中間期及び通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

１．平成18年12月期中間期（平成18年１月１日～平成18年６月30日）業績予想の修正

【連結】　（単位：百万円、％）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	10,130	22	△34
今回修正予想（B）	9,687	△170	△113
増減額（B－A）	△443	△192	△79
増減率（％）	△4.4%	－	－
前中間期（平成17年６月中間期）実績	8,627	148	67

【単体】　（単位：百万円、％）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	9,590	15	△11
今回修正予想（B）	9,091	△86	△47
増減額（B－A）	△499	△101	△36
増減率（％）	△5.2%	－	－
前中間期（平成17年６月中間期）実績	8,627	152	71

２．平成18年12月期通期（平成18年１月１日～平成18年12月31日）業績予想の修正

【連結】　（単位：百万円、％）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	21,600	410	201
今回修正予想（B）	21,700	110	22
増減額（B－A）	100	△300	△179
増減率（％）	0.5%	△73.2%	△89.1%
前期（平成17年12月期）実績	17,881	103	34

【単体】　（単位：百万円、%）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	20,100	400	196
今回修正予想（B）	19,000	170	89
増減額（B－A）	△1,100	△230	△107
増減率（%）	△5.5%	△57.5%	△54.6%
前期（平成17年12月期）実績	17,847	118	42

３．中間期業績予想修正の理由（連結・単体）

売上高につきましては、顧客ニーズが高度化・多様化する中で、当社が取り組んでおります「プロフィット・シェアリング・モデル」が顧客企業より評価をいただき、順調にシェアアップによる売上伸長を図っております。一方、製造派遣の解禁により、これまで請負契約しか選択肢がなかった当業界におきましても派遣契約が可能となっております。解禁により行政の対応につきましても派遣と請負を明確に峻別しており、当社におきましても、請負契約から派遣契約への変更が適当である事業所につきましては、派遣契約を提案しております。しかし、顧客の一部には、顧客側の負担増等を理由に、請負契約継続を要望されるところがあり、その中の一部事業所には、行政が告示しております請負基準に従って出来高請負等をすすめた場合、採算の大幅な悪化が懸念されたことから、撤退を行いました。更に、赤字事業所の整理も実施しており、これらにより、当中間期の売上高は一時的に減少するものの、好調な市場環境や当社に対する引き合いを考慮の上、下期での挽回が十分に可能と判断し、行ったものであります。

これらの結果、売上高は、当初の業績予想を下回る見込みであります。

経常利益につきましては、売上高の未達により売上総利益が見込みを下回ることによる影響があります。また、販売費及び一般管理費におきまして、間接経費の削減及び募集費の効率化に努め成果が得られ、売上高未達の影響を軽減する見込みでありましたが、将来に繋がる新規事業である医薬事業の立ち上げ準備による投資の実施及び子会社である株式会社アネブルにて、下期後半に販売を予定しております自動車部品（アフターパーツ）の開発に対する先行投資の他、管理体制整備を前倒しにて行いましたことから、当初見込んだ費用を上回る見通しです。以上の主な理由から、経常利益は業績予想を下回る見込みであります。

当期純利益につきましては、特別損益において特筆すべき事項はなく、経常利益の減少に伴い業績予想を下回る見込みであります。

これらの結果、連結業績予想につきましては、平成18年２月17日に発表しました予想と比べ、売上高は4.4%減の9,687百万円、経常利益は△170百万円、当期純利益は△113百万円となる見通しであります。

また、単体業績予想につきましては、平成18年２月17日に発表しました予想と比べ、売上高は5.2%減の9,091百万円、経常利益は△86百万円、当期純利益は△47百万円となる見通しであります。

４．通期業績予想修正の理由（連結・単体）

下期業績につきましては、中間期の撤退及び整理の減少を補う売上高の順調な推移を見込んでおり、利益面でも第４四半期以降には、先述した撤退や整理及び先行投資の効果が現われ、顕著な増加を見込んでおります。この結果、第４四半期の業績は、来期以降の中期経営計画の達成が十分に見通せる水準になるものと予想しております。

売上高につきましては、当社の主要取引先である国内大手メーカーから当社提案を評価した強い引き合いが続いており、採用体制を強化することにより、順調に増加すると見込んでおり、通期では当初業績予想を上回る見込みであります。

経常利益につきましては、医薬事業及び子会社アネブルの先行投資等により販売費及び一般管理費が増加しており、通期業績予想を下回る見込みであります。

当期純利益につきましては、特別損益において特筆すべき事項はなく、経常利益の減少に伴い業績予想を下回る見込みであります。

これらの結果、連結業績につきましては、平成18年２月17日に発表しました予想と比べ、売上高が0.5%増の21,700百万円、経常利益が73.2%減の110百万円、当期純利益が89.1%減の22百万円となる見通しであります。

また、単体業績予想につきましては、平成18年２月17日に発表しました予想と比べ、売上高が5.5%減の19,000百万円、経常利益が57.5%減の170百万円、当期純利益が54.6%減の89百万円となる見通しであります。

５．今後の取り組み

当社グループは、今後の取り組みとして、顧客ニーズにも合致しました「プロフィット・シェアリング・モデル」に基づく案件獲得の推進と、子会社アネブルの自動車業界での本格展開及びアネブルでのノウハウを活かした医薬業界進出を始めとした高付加価値業務の受託にこれまでどおり注力していくと共に、インターネット・携帯電話・紙媒体それぞれにおいて一層効果的な採用活動を進め、売上の基礎となる人材の採用を伸ばす一方、有能な人材流出を防ぐために労務管理体制も強化するといった施策に取り組み、今後の計画をより一層確実なものにするだけでなく、大きく上回るよう推進してまいります。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。

以　上